

群 教 セ	G02 - 03
	令 3.278 集
	社会一中

自らの疑問を基に 探究課題を設定することができる生徒の育成

——プチ課題設定シートの活用と友達と交流し合う活動を通して——

特別研修員 吉田 吟

I 研究テーマ設定の理由

中学校学習指導要領解説社会編では、教科の目標として「自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切である。」とされている。さらに、中央教育審議会の初等中等教育分科会では、Society5.0のような予測困難な時代を迎えるに当たって「自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる」としている。

研究協力校の生徒は、課題について調べたり、まとめたり、伝え合ったりする活動に積極的に取り組むことができ、能力的にも長けている生徒が多い。また、既習事項や問題集を反復学習し、習得することにも長けている。一方で、疑問をもって主体的に学ぶことが得意ではない。その原因には、生徒のささいな疑問を授業の中で蓄積したり、その疑問を使って授業を構成したりしていなかったという点が挙げられる。

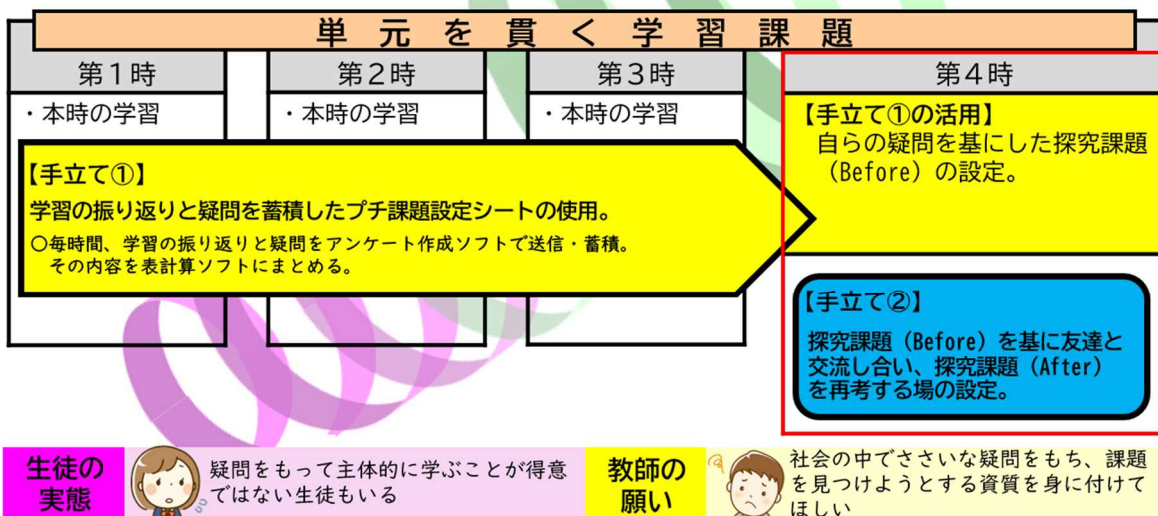
そこで、学習の振り返りと振り返り過程で生じる疑問をまとめたシート（プチ課題設定シート）を使用し、自らの疑問を基に探究課題（生徒が主体的に探究しようとする課題）を設定する活動を行う。探究課題設定の理由を互いに交流させ、意見や感想等を伝え合わせる。友達との交流で得た意見や感想等を参考にしながら、探究課題を再考させ、探究課題をブラッシュアップさせる。それによって、自らの疑問を基に探究課題を設定することができる生徒を育成することができると考え、上記のとおりテーマを設定した。

II 研究内容

目指す生徒像



自らの疑問を基に探究課題を設定することができる生徒



2 授業改善に向けた手立て

生徒が、自らの疑問を基に探究課題を設定できるように、次のような具体的な手立てを用いた。

手立て1 学習の振り返りと疑問を蓄積したプチ課題設定シートの使用。
 手立て2 探究課題 (Before) を基に友達と交流し合い、探究課題 (After) を再考する場の設定。
 ※手立て1、手立て2ともに、アンケート作成ソフトと表計算ソフトを使用。

手立て1における「プチ課題設定シート」とは、毎時間アンケート作成ソフトや表計算ソフトを使用して学習の振り返りと疑問を蓄積してきたものである（図1）。なお、日常生活や社会の中でささいな疑問をもち、課題を見付けようとする資質を身に付けてほしいという願いを込め、「プチ～」と名付けた。生徒が学習の振り返りと疑問を確認できるだけでなく、生徒同士も

	1時間目の振り返り	2時間目の振り返り
本時のめあて	産業や科学技術の発展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたのか考えよう。	情報化の進展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたのか考えよう。
生徒A	クローンの賛成・反対で賛成側は科学などの産業の発展をメインに考えているが、それではいま生きている人の心を傷つける可能性がある。また、今外国人の雇用人数が増え日本の人が就職難になるかも知れない今、能力を上げられるクローンが誕生するとそれこそ日本人の就職率が減少してしまうと思う。	防犯カメラが町にいくつあっても犯罪解決に貢献するため、メリットのほうが多いと思う。防犯カメラは誰でも見れるわけではなく、何もしなければ別に注目されるわけではないから安全重視でこれからも活動していくのが良いと思う。
	時代が進むに連れて、科学や産業 考え方も変わっていき 時代に	プライバシーの権利についてですが、最近インターネットを使う年

図1 プチ課題設定シート（表計算ソフト）

互いの学習の振り返りなどを共有することができる。そして、これを材料として探究課題 (Before) を考えていく。

手立て2は、通常では、3時間扱いの単元に探究課題を設定する時間を設ける。この時間では、主に【設定・共有】、【交流】、【再考】の三つの場面で構成される。その過程の中で、プチ課題設定シートで蓄積した小さな疑問を基に探究課題を設定し、【設定・共有】、【交流】、【再考】の手順を踏みながら、社会につながる探究課題を設定する。社会につながる探究課題とは、具体的には「どうしたら～」という主体的に社会に関わり、解決していこうというものである。

III 研究のまとめ

1 成果

- 【プチ課題設定シートによる学習の振り返りと疑問の蓄積 → 探究課題 (Before) 設定・共有 → 友達と交流 → 再考 → 探究課題 (After) 設定】のサイクルを複数の単元で取り入れたことで、生徒も自らの疑問を基に探究課題を設定することに慣れてきた様子が見られた。
- 学習の振り返りと疑問をプチ課題設定シートに蓄積したことで、これまでの学びや気づき、疑問を短時間で確認ができたり、友達との意見共有ができたりした。
- ICT端末の活用により生徒の交流時間を確保できたおかげでペア交流を3回行うことができ、1回目より2回目、2回目より3回目と、アドバイスの質が向上した生徒も見られた。それに伴い、より質の高い探究課題 (After) を考えられた生徒もいる。

2 課題

- 探究課題 (Before) から探究課題 (After) に変化した様子や理由（どう変わったか、なぜ変わったか）を、生徒に考えさせる機会を与えた方が、より主体的な学びとなった。
- 教師がよりよい探究課題へ導くようなアドバイスを取り上げ、賞賛・助言・促しなどにより、より質の高いアドバイスを書かせられたのではないかと考える。教師は単なる進行役ではなく、生徒の学びを保障しながらも学習活動の質を高められるファシリテーターとしての役割を果たすための工夫を考える必要がある。

実践例

1 単元名 「これからの人権保障」 (第3学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由や現代社会に見られる課題の解決に向けた取組について学習する。まず、産業や科学技術の発展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたのかを理解する。そこから、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について考えようという単元を貫く学習課題を立てる。本単元は、情報化の進展に伴う具体的な課題や、国際社会にはどのような人権上の課題があり、解決に向けてどのような取組がなされてきたかについても気付くことができる。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	<p>プチ課題設定シートを活用しながら、自らの疑問を基に設定した探究課題 (Before) を友達と交流したり、友達の助言を基に再考し探究課題 (After) を設定したりする活動を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 産業や科学技術の発展、情報化やグローバル化の進展に伴う具体的な課題を資料から読み取り、認められてきた権利との関係や人権上の課題の解決に向けてどのような取り組みがされてきたのかを理解する。 (知識及び技能)</p> <p>イ 産業や科学技術の発展、情報化やグローバル化の進展に伴って、どのような課題が生まれどのような権利が認められてきたのか、多面的・多角的に考察、表現する。 (思考力、判断力、表現力等)</p> <p>ウ 社会の変化に伴って認められてきた新しい人権に関心を持ち、自らの疑問を基に探究課題を設定して、意欲的に追究しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)</p>	
評価 規 準	<p>(1) 社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。 (知識・技能)</p> <p>(2) 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現している。 (思考力・判断力・表現力)</p> <p>(3) 社会の変化に伴って認められてきた新しい人権に関心を持ち、自らの疑問を基に探究課題を設定し、意欲的に追究しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	<ul style="list-style-type: none"> 産業や科学技術の発展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたのか考える。 【単元を貫く学習課題】「私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について考えよう。」
追究する	第2時	<ul style="list-style-type: none"> 情報化の進展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたのか考える。
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会にはどのような人権上の課題があり、解決に向けてどのような取組がなされてきたか考える。
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> 自らの疑問を基に、友達と交流しながら探究課題を設定する。
まとめ	第5時	<ul style="list-style-type: none"> 探究課題について調べたことを基に、友達と交流する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全5時間計画の第4時に当たる。これまでの学習で、産業や科学技術の発展や情報化の進展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたかについて学習した。また、国際社会にはどのような人権上の課題があり、解決に向けてどのような取組がなされてきたかについても学習した。そして、本時ではめあてとして、「自らの疑問を基に、友達と交流しながら探究課題を設定しよう。」を提示する。プチ課題設定シートを活用しながら探究課題 (Before) を自ら設定し、友達と交流することを通して、探究課題 (After) へとブラッシュアップしていく。

そのための具体的な手立ては、次のとおりである。

手立て1

学習の振り返りと疑問を蓄積したプチ課題設定シートの使用。

(アンケート作成ソフト・表計算ソフトを使用)

毎時間、アンケート作成ソフトを使い「学習の振り返り」と「疑問」を蓄積してきた内容を、表計算ソフトを用いて効率よく一覧で振り返ることができる。これにより、自らの疑問や学びを基にした探究課題 (Before) を設定することができる。

手立て 2

探究課題（Before）を基に友達と交流し合い、探究課題（After）を再考する場の設定。

（アンケート作成ソフト・表計算ソフトを使用）

友達と互いに探究課題（Before）設定の理由を伝え合った後、相手の探究課題がよりよくなるためのアドバイスを、表計算ソフトを用いながら伝える。他者から助言してもらった新たな視点や要素を取り入れることで、自らの探究課題をよりよくブラッシュアップすることができる。

4 授業の実際

(1) 設定・共有する過程

ICT端末で「プチ課題設定シート（表計算ソフト）」を開かせ、これまでの学習の振り返りや疑問を確認させた。3時間分の蓄積を一読するために2分程度時間をとったが、自分の部分は読み終えて、友達の部分を読んでいる生徒もいた。そして、本時のめあて「自らの疑問を基に、友達と交流しながら探究課題を設定しよう。」を提示した。その後、プレゼンテーションソフトを活用しながら、探究課題を考える際の二つの視点「単元のめあてを意識しているか・生活経験や身の回りの社会と関連付けられるとよりよい」を確認した。また、探究課題の文例として「～～どのように解決していったらよいか」を示した。「～～どのように解決していったらよいか」という社会につながる探究課題を設定できるとよいことを確認した。探究課題（Before）を考える時間は10分確保したが、9分程度で全員がアンケート作成ソフトで探究課題（Before）を送信することができた（図2）。早く終える生徒もいたため、「ウェブブラウザで調べ学習を始めてよい」と指示し、個別の学びを保障できるようにした。



図2 ICT 端末で作業する生徒

(2) 交流する過程

全員が探究課題（Before）をアンケート作成ソフトで送信できたことを教師用ICT端末で確認し、内容を交流用の表計算ソフトに30秒程度でコピー&ペーストした。それを即時、学習支援ソフトにアップロードし、生徒も見られるようにした。自分の探究課題（Before）のみならず友達の探究課題（Before）も一覧で見ることができた。次に、隣同士でペアを作らせ、互いの探究課題（Before）の設定理由を1分ずつで伝え合わせた。身振り手振りで一生懸命に伝える生徒・質問も交えて互いに深掘りしているペアなどの様子が見られた（図3）。その後3分程度時間を確保し、表計算ソフトに相手へのアドバイスを入力させた。その際、相手の探究課題をよりよくするためにどのようなアドバイスをしたらよいか、どのような新しい視点を与えたらよいか考えることを確認した。以上のペア学習の流れを、前後のペア・ななめのペアと、計3回実施した。



図3 設定理由を伝え合う生徒

(3) 再考する過程

計3回の交流を経て、それらを参考に探究課題を再考させた。安易に「変えなくていいや」では本時のめあては達成されないため、必ず友達からのアドバイスを取り入れた上で探究課題をブラッシュアップするよう促した。生徒は交流用の表計算ソフトに入力してもらった友達からのアドバイスを真剣に読み返し、再考を始めた。アドバイスを書く際に、前に書かれたアドバイスを讀んだ上でそれとは違う視点からアドバイスをしようとしていた生徒も多く、1回目より2回目、2回目より3回目のアドバイスの方が、より具体的かつ新しい視点を与えるものになっていた生徒も多く見られた（次ページ表1）。

表1 生徒Aの場合

探究課題 (Before)			探究課題 (After)
児童労働の原因は何か？また、その解決策はあるのか？	➡	<p>【1人目】まず最初に自分の中での解決策だったり原因を考えてから調べるとよいかも。～後略～</p> <p>【2人目】～前略～。児童労働が起きている国の現状を調べてみるのもよいと思った。</p> <p>【3人目】～前略～。実際、自分たちと同じ年代の子たちが働かされているとう事実に、<u>私たちが何をすることができるかも気になりました。</u></p>	<p>児童労働の原因は何か？また<u>自分たちは、解決のためにこれから何をすべきか？</u></p>

探究課題 (Before) の時点ですでに「～どのように解決していったらよいか」タイプの探究課題となっているが、3人目の友達からのアドバイスで「私たちが何をすることができるか」という視点を与えられ、探究課題 (After) では、より自分事として解決しようとする内容にブラッシュアップしている。この表計算ソフトでは同時編集可能で、友達の入力内容を即時に見ることができる利点がある。

逆に、3人の友達から比較的同類型のアドバイスをもらい、再考の方向性が明確になったおかげで探究課題をブラッシュアップできた生徒もいた (表2)。

表2 生徒Bの場合

探究課題 (Before)			探究課題 (After)
紛争が起きている国の生活状況と日本の違いとは？	➡	<p>【1人目】～前略～。<u>自分なりの解決方法なども考える</u>といいかも！</p> <p>【2人目】～前略～。<u>今後どうしていくべきか</u>って話も聞きたいです！</p> <p>【3人目】～前略～。<u>結構難しそうだけど紛争を防ぐ方法も</u>考えてほしいかな！</p>	<p>紛争が起きている国の生活と日本の生活の違い～<u>どうすれば紛争を解決できる？</u>～</p>

探究課題 (Before) では「違い」について調べようとしている。これは、ウェブブラウザで検索すれば比較的容易に答えが見つかりやすい、一問一答形式に近い探究課題である。しかし、3人の友達からそれぞれ上記のようなアドバイスをもらい、探究課題 (After) では「どうすれば解決できるか」と、よりよい探究課題へとブラッシュアップさせている。

5 考察

手立て1では、前時までの振り返りを「プチ課題設定シート (表計算ソフト)」に蓄積したことで、これまでの学びや気付きを比較的短時間で確認できたり、友達との意見共有もできたりした。しかし、探究課題 (Before) までは家庭学習の一環として取り組ませておけば、本時での交流活動などのためにより時間を確保できた可能性がある。

手立て2では、ICT端末の活用により効率化を図ることができたおかげで、生徒の交流時間を確保できた。また、友達との交流を3回行ったことで、1回目より2回目、2回目より3回目と、アドバイスの質が向上した生徒が見られた。それに伴い、より質の高い探究課題 (After) を考えられた生徒もいる。しかし、社会科における資料活用能力向上を意識すれば、探究課題の設定理由を伝え合う場面では口頭のみならず、根拠となる資料も示しながらできるとよりよかったと考える。また、アドバイスをし合う交流の1回目→2回目→3回目の間で、教師がよりよい探究課題へ導くようなアドバイスを取り上げ、賞賛・助言・促しなどを行うことにより、より質の高いアドバイスを書かせられたのではないかと考える。教師は単なる進行役ではなく、生徒の学びを保障しながらも学習活動の質を高められるファシリテーターとしての役割を果たすための工夫を考える必要がある。

6 資料

① プチ課題設定シート（手立て1）

		3 B 2-3プチ課題設定シート これからの人権保障（教科書 p 62～p 67）					
		単元のめあて「私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について考えよう！」					
		1 時間目の振り返り	2 時間目の振り返り	3 時間目の振り返り	1 時間目の疑問など	2 時間目の疑問など	3 時間目の疑問など
		産業や科学技術の発展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたのか考えよう。	構造的な発展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたのか考えよう。	国際社会にはどのような人権上の課題があり、解決に向けてどのような取り組みがなされてきたのか考えよう。	産業や科学技術の発展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたのか考えよう。	構造的な発展に伴って、どのような課題が生まれ、どのような権利が認められてきたのか考えよう。	国際社会にはどのような人権上の課題があり、解決に向けてどのような取り組みがなされてきたのか考えよう。
1	生徒 A						
2	生徒 B						

② 本時の中で使用した、探究課題（Before）を送信するためのアンケート作成ソフト

★ 3 B 2-3 探究課題 入力フォーム

🔍 264522@... (共有) アカウントを切り替える

出席番号

選択 ▼

氏名（姓名の間にスペース不要）

回答を入力 _____

2-3 探究課題

回答を入力 _____

送信 フォームをクリア

③ 交流用の表計算ソフト（手立て2）

番号	名前	①共有しよう★	②感想、アドバイスを書いてあげよう★			③再考しよう★
		探究課題 Before	1 回目に聞いた人	2 回目に聞いた人	3 回目に聞いた人	探究課題 After
1	生徒 A					
2	生徒 B					
3	生徒 C					
4	生徒 D					
5	生徒 E					
6	生徒 F					